

5/12 (月) 総合 A 棟 111 号室 13:30-15:00

# 生態系への脅威となった外来植物の特性 全球・地域規模での検討

齋藤達也 (東京農工大学・学振 PD)

## 概要

外来植物は世界各地の在来生態系に対し深刻な影響を与えている。在来生態系の保全のためには、生態系への脅威となる種の輸出入・栽培の制限や 早期防除といった外来植物の影響緩和対策が必要となる。そのため、生態系への脅威となる外来植物に共通する特性を把握し、どのような種が脅威 となるかを予測することが重要となる。しかし、先行研究のほとんどは外来植物の分布拡大と関連する特性にのみ着目していたため、生態系への脅威となる種に関する知見は不足している。また、ある特定の地域でのみ脅威となる種が必ずしも全球規模での脅威となっていないため、生態系への脅威となる種の特性は対象とする空間範囲 (全球規模と地域規模) によって異なる可能性がある。さらに、気候条件等の相違のため、脅威となる種の特性は地域間においても異なると予測される。そこで、本研究では、全球および地域規模において、生態系への脅威となった種の特性を明らかにした。

対象地域は、東アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア、南アフリカの 6 地域とした。各地域において生態系への脅威としてリストされた種を解析対象とし、その特性 (乾燥耐性、湿潤耐性、栄養繁殖、寿命、生育形、最大高、種子長、利用用途) を調べた。その結果、1169 種について全ての特性の情報を得ることができた。次に、決定木およびランダムフォレスト法を用いて、以下の応答変数と各特性との関係を解析した。全球規模の場合は各種が脅威としてリストされた地域数を、地域規模では各地域において各種が脅威としてリストされたか否かを応答変数とした。

本発表では、全球規模と地域規模における相違を考慮しつつ、生態系への脅威となる種の特性について報告する。

問い合わせ先 遺伝子実験センター  
下野綾子 91090